

中国WTO加盟から20年 世界貿易に占める中国のシェアは 13.1% (2020年) に拡大

国際経済研究所主席研究員

伊藤信悟

中国が世界貿易機関（WTO）に加盟してから二〇二一年一月一日で二〇年となる。加盟前の二〇〇〇年時点では、世界貿易総額に占める中国のシェアは三・六％と、世界第八位に過ぎなかったが、この二〇年間で大きく

高まった（図参照）。〇四年に日本を、〇九年にはドイツを、さらに一三年には米国を抜き、中国は世界最大の貿易大国となった。コロナの感染拡大を他国と比べて早期に抑制したこともあり、二〇年の中国のシェアは過去最高の一三・一％にまで拡大している。

中国を最大の貿易相手国とする国・地域も増えた。国連の貿易データベース「コムトレード」(Comtrade)で二〇年の国・地域別貿易相手国の統計が明らかにされている一四カ国・地域のうち、中国が最大の貿易相手国である国・地域の数は三七に達している（ドイツは二四カ国・地域、米国は一九カ国・地域）。二〇〇〇年時点では、中国が最大の貿易相手国である国・地域は香港、スーダン、モンゴル、オマーンにとどまっていた。

また、米国よりも中国との貿易上の結びつきが強くなっている国・地域が増えている。上記一四カ国・地域中、八三カ国・地域（七二・八％）で対中貿易額のほうが対米貿易額よりも多い状態にある。二〇〇〇年時点では「コムトレード」で統計が得られる一六五カ国・地域中、二〇カ国・地域（一二・一％）にとどまっていた。市場としても、原材料・部品・製品の調達先としても、中国の影響力はこの二〇年間で大きく高まったといえる。WTO加盟を契機

とした関税率の引き下げや外資導入規制の緩和などがそれに大きく貢献したことは間違いない。

さらに、中国政府は自由貿易協定（FTA）の締結も積極的に進めている。今年一月一日現在、すでに締結済みのFTAは二一、交渉中のFTAは一〇ある（中国商務部）。さらに、二二年九月には中国政府は環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTPP）への加入も申請している。

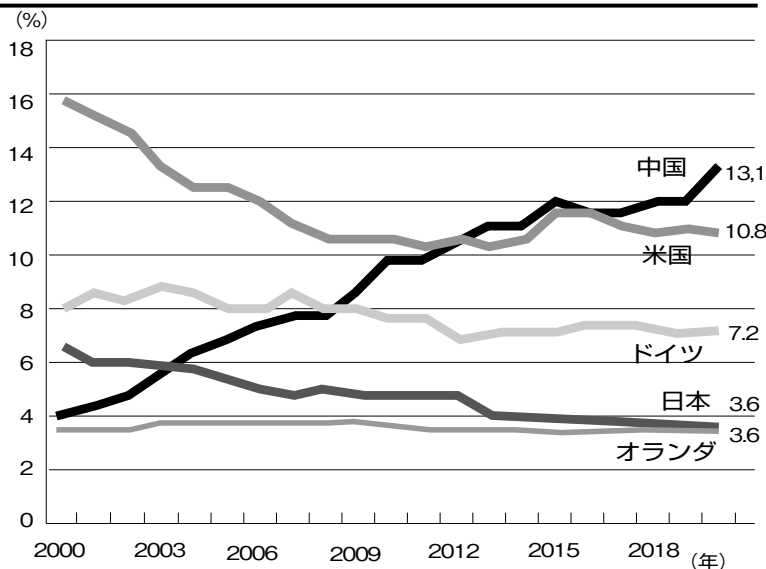
ルール遵守と途上国待遇に関する厳しい目

ただし、WTOルールを中国が十分に遵守していないのではないかと懸念が、他の加盟国から盛んに呈されている。二〇二一年一〇月にWTOで対中貿易政策検討（TPR）が開催された際、中国に提出された質問は二五六二件に達した。前回一八年のTPR対比一六%も質問が増えていた。例えば、補助金政策に関する中国政府のWTOへの報告が不十分だとの声が上がっている。また、安全保障の名の下、産業保護が行われることも懸念されている。

加えて、これだけ大きな世界貿易におけるプレッソを誇る中国に、発展途上国待遇を与え続けることを疑問視する声がかねてより上がっている。それに対し、中国政府は

「最大の発展途上国としての責任を果たしていく」と述べているが、その具体的な態様が問われている。●

図 世界貿易総額に占める主要国のシェアの変化



（出所）WTO Statistics より筆者作成